

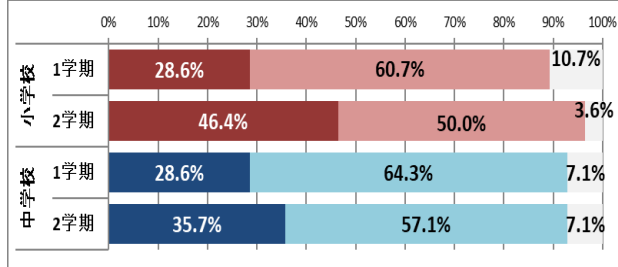
令和元年度 2 学期 いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）

できた	おおむねできた	やや課題がある	課題がある
-----	---------	---------	-------

○…成果

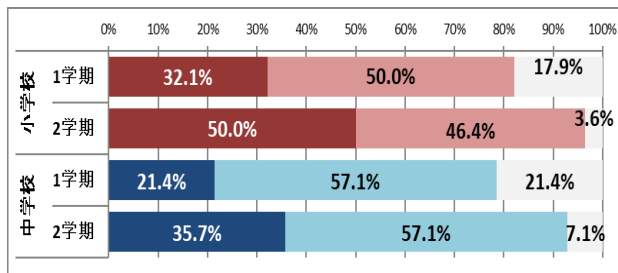
▲…課題

◆ 互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか



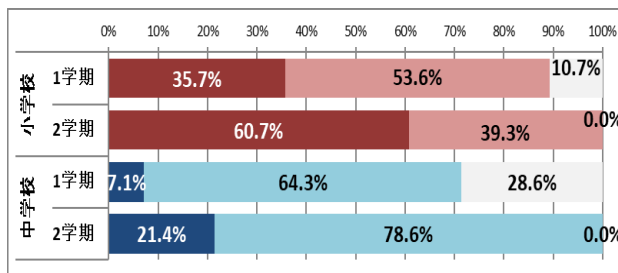
- 「あいさつ、笑顔、ありがとう」の取組を継続している。
- 「きらきらの木」（友達の良い所見つけ）に取り組んでいる。
- ▲児童の主体的な取組を推進し、児童会活動の活性化を図りたい。
- ▲未然防止に必要なことは共通理解できているので、実践力を高めていきたい。

◆ 命や人権を尊重する豊かな心を育むことができたか



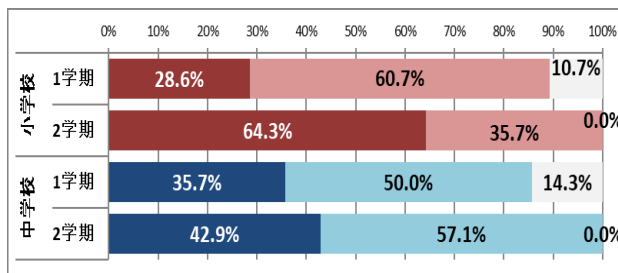
- 道徳・特別活動など、一人一人の自己肯定感を高めるとともに居場所づくりに努め、いじめの未然防止に取り組んでいる。
- 毎月1回道徳デーとして、道徳教材を家に持ち帰り、保護者と一緒に話し合う機会を設けている。
- ▲道徳の授業の質的転換を図っている最中であり、今後も継続して研修、研究が必要である。

◆ 家庭や地域への働きかけができたか



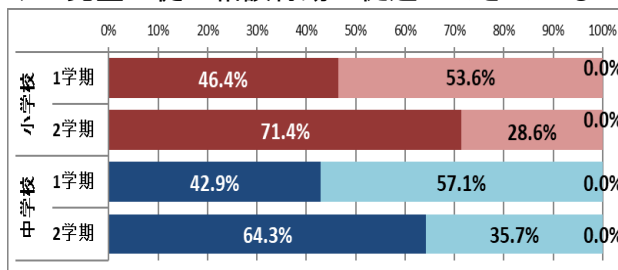
- インターネットトラブル防止講座を子どもと保護者対象に実施し、体験的な学びを通して啓発を行った。
- 総合的な学習の時間において、地域と連携した学習に取り組み、実際の子どもの姿を見ていただくことで、啓発につながっている。
- 学校だよりに、いじめ防止の取組を掲載し、保護者への啓発を行っている。

◆ 学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できているか



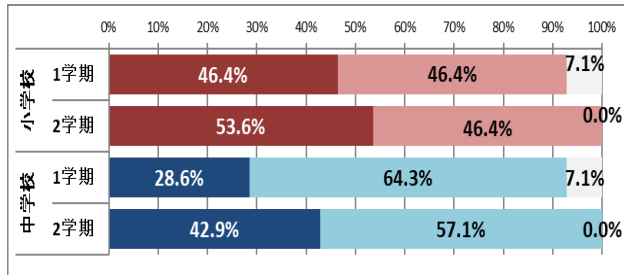
- 「アセス」「心の相談アンケート」の活用に加えて、授業中や昼休みにも教員と生徒が積極的に交流し、共感的理解に努めるよう取り組んでいる。
- 「アセス」の結果をもとに支援の検討会を実施し、情報共有することで、見守りの目が増えている。

◆ 児童生徒の相談行動の促進ができていますか



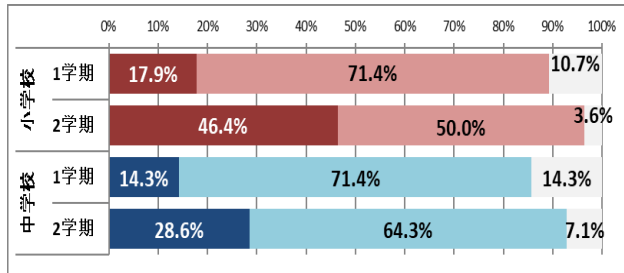
- 「きょうしつ」で考える心の危機/命の危機の活用の研修と実践を通して推進している。
- 相談ポストを設置し、定期的なアンケートだけでなく、いつでも相談できる体制を整えている。

◆ 双方向（学校家庭間）からの実態把握と情報共有がなされているか



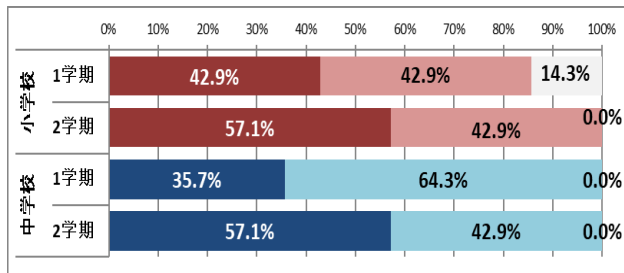
○毎月、教育相談日を設定し、保護者からの相談に対応しているようにしている。

◆ 研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされているか



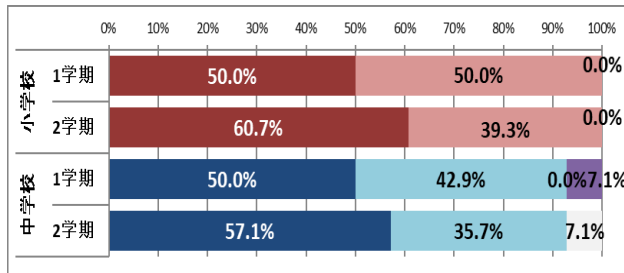
○毎月、シリーズ研修を行って指導力量向上に努めている。
▲毎月の職員会議で「きょうしつ」の考え方について確認する機会を設けているが、十分に浸透しているとはいえない。

◆ 「チーム学校」による組織的な対応がなされているか



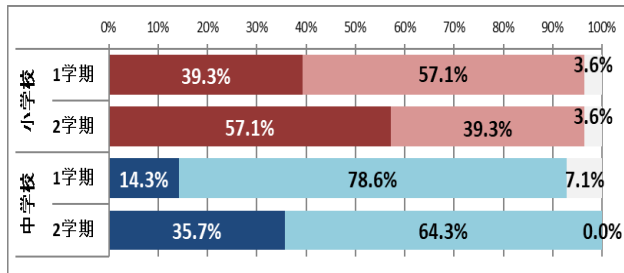
○一人で抱え込まず、学年、管理職をはじめ、学校全体でいじめの早期発見、解決、再発防止に取り組んでいる。
○すべての学級の気に係る児童の情報を生徒指導担当が集約し、情報共有を図っている。
○SCやSSWにも会議に加わってもらい、事例を多面的に検討し対応している。

◆ 関係機関との連携を強化した取組がなされているか



○「きょうしつ」のリーフレットの活用について、相談センターの学校支援カウンセラーに來校してもらい研修を実施した。
▲必要に応じ連携を図ろうとしているが、複雑な状況になるほど、困難な状況がある。

◆ 推進体制・検証体制を整える取組がなされているか



○毎学期初めにいじめ対策の検証を行い、生徒指導に関する話し合いを通じて、危機管理意識の向上を図っている。
▲いじめ対策の検証体制として、学校評価を有効活用できるような評価方法等を再検討しているところである。

◎ 総括

アセスの活用や相談行動の促進、情報共有、組織対応等の結果からも、「いじめ見逃し“ゼロ”」の取組に対する成果が表れていると考える。課題として、児童生徒の内面を成長させていくために家庭と連携した支援の在り方をさらに充実させていく必要がある。